

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

学術集会の定期開催：学術集会総会、高血圧フォーラムをそれぞれ年1回開催した。

・国際学会の誘致と開催：学会活動のより国際化とならびに日本の高血圧学の研究と学会事業の更なる発展を目的として、国際高血圧学会（ISH）の開催に立候補し、第29回国際高血圧学会の誘致に成功した。同学会の日本誘致は2006年以来16年ぶりであり、2022年9月に京都で開催され、2023年度日本政府観光局（JNTO）国際会議誘致・開催貢献賞（開催の部）の受賞会議として選出された。

・研究事業の学会主導での実施

⇒厚生労働省による予防健康づくりに関する大規模実証事業「食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業」を学会として受託し、スポット尿検査による食塩摂取量・カリウム摂取量の客観的評価と受診者へのフィードバックの実行可能性、食行動の変化の検討、実行可能性の高い食環境整備手法の検討等を行っている（2023～2026年度）。

⇒AMED「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業 ヘルスケア社会実装基盤整備事業」を受託し、SR作業を実施、指針案の作成を行っている（2022～2025年度）。

⇒日本医師会のかかりつけ医診療データベース事業（J-DOME）への参画：身近なかかりつけ医に通院する高血圧患者のリアルワールドのデータベース構築を日本医師会と共同で行っている。

・英文学術誌“Hypertension Research”誌の発行：毎月発行。投稿数956編（2023年）、年間400編の論文発表（2023年は日本63%、中国15%、アジア8%、欧州8%、その他北米・南米、中東諸国などから）。インパクトファクター5.4（2022年）

・ガイドラインの改訂作業の実施（2024～）

⇒2025年度の高血圧ガイドラインの改訂に向けてJSH2025統括委員会を組織し、CQの作成とSRの実施作業を行っている。

b. 当該領域における国際的な役割

● 国際高血圧学会（ISH）との連携における役割

➢ ISHにおける役員（Executive Committee, Council Member）としての貢献：Executive Committeeでは6名のうち日本高血圧学会より1名をVice president（Hiroshi Itoh）として、Council Member 8名のうち1名（Kazuomi Kario）が参画している。

➢ ISH学術集会を京都にて開催（会長：伊藤裕）。第29回国際高血圧学会（ISH2022 KYOTO）を開催し、世界各国より約1,500名を集め、世界の高血圧学の進歩における日本の貢献に関する情報を発信（本学会学術英文機関誌Hypertens Res. 2023. 46: 3-8 ISH2022 KYOTO特集号に掲載）。

● 欧米の高血圧関連団体との連携における役割

➢ New Investigator Awards for Japanese Fellows（2017年～）：米国心臓協会（AHA）主催の学

術集会で発表しようとする若手研究者の論文を審査して、毎年 3 名を顕彰している。最優秀者はAHA シンポジウムにおいて発表の機会が与えられる。

● アジアにおける高血圧関連団体との連携における役割

- アジア太平洋州高血圧協会 (APSH) との連携：ISH2022 KYOTO における共同シンポジウムの開催。2023 年ベトナムで開催されていたアジア太平洋州高血圧協会 (APSH) 主催のサマースクールへの協力。
- Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome (APCM) との連携：2023 年より本学会との連携を開始し、両学会の学術集会にて特別シンポジウムを開催。
- Hypertension Society Meeting in Asia (2020 年～)：アジアにおける国・地域における高血圧学会のネットワークを構築する会議を主宰。現状で 14 か国が参加。アジアの高血圧診療の実態把握と管理率改善に向けたステートメント発出に向けて主導的に活動。
- 本学会学術総会において 2020 年より継続的にアジアセッションを実施。

c.活動からもたらされる社会的な意義

疾患の中でも最も多い高血圧の研究を推進することで、心臓病・脳卒中・認知症などの予防に繋がり、本邦の国民の健康寿命の延伸に寄与するところが大きいと考える。国際的な学術研究協力を推進することで、本邦の研究レベルと共にアジア諸国の高血圧に関する学術研究の発展に資するところがあると考え。今後の高血圧治療研究を担う若手研究者の育成に資するところがあると考え。

d.学会運営上留意している点

日本高血圧学会は、循環器内科、糖尿病代謝内分泌内科、神経内科、腎臓内科等、多くの専門領域が集合している学会の為、多様性を尊重している。また若手や助成研究者が活躍できる素地の醸成を重視している。学会運営においては公平性、透明性、公正性を重視し、会員に開かれた学会を目指している。行政機関を含めた社会との連携を重視している

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- 循環器病予防療養指導士制度の運営：日本循環器学会・日本動脈硬化学会と共催。
- 日本医師会 かかりつけ医 診療データベース研究事業 (J-DOME)：日本医師会と連携協定を締結 (2020 年)。日本糖尿病学会とも連携。全国の実地医家の診療データレジストリを糖尿病と高血圧を中心に収集し解析する事業。
- 脳卒中・循環器病対策基本法案に関連した健康な食事・食環境コンソーシアム：13 学協会の一つ。予防および国民への啓発を中心に参画。
- 領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキング：日本医学会連合の企画に参画。
- 腎デナベーション療法合同検討委員会：日本循環器学会などとの合同委員会を設置し、高血圧の新規治療として開発されている腎デナベーション療法の適切な運用に向けた討議を実施している。
- 学術集会における合同シンポジウムや他学会作成ガイドラインへの協力など